



鶏けいめい 鳴

2007年5月13日

イエスの言葉

『父よ、彼らをお赦してください』

聖書（ルカ福音書23章24節）

牧師 河合裕志

イエスはいくつもの印象的、感動的な言葉を残したが上記の言葉もその一つであろう。

これがどのような状況下で語られたのかわかるならばこれは殆ど信じがたい言葉となる。イエスはこれを十字架の上から言っている。自分を十字架につけて殺しにかかっている連中のために祈っている。

こんなことって通常出来ることなのか。自分に向かって悪口を言う者、傷めつける者、いじめを働く者、不利益をもたらす者、こんな奴を私達は赦すことは出来ない。ましてや無実の自分を十字架の上にはりつけにして、やった、やったと喜んでいる輩を赦すなんてことは百パーセント出来ない相談である。

もし万が一、私達がそんなひどい目にあつたならば、この野郎、赦しておかないぞ、のろい殺してやる、地獄へ行きやがれ、と言うに決まっている。いや自分はそうじゃない、という人がいたらお目にかかりたいものだ。人間はそうお目出度くは出来ない。

しかしイエスは違っていた。殺人者達のために祈っている。イエス処刑の推進者と

なった宗教指導者達、彼らの扇動にのつた民衆達、刑執行にあたったローマの役人達のために、その罪の赦しを父なる神に願っている。彼らがこの事で神の罰を受けることがないように、無罪放免となるように祈っている。

全くこれは考えられない祈りだ。およそ人間のレベルを越えていないか。北森嘉蔵氏はこの姿に神の子を見ている。確かにそうとしか思えない。どこどこまでも人間を愛し、その罪を赦そうとする、この徹底ぶりは人間のラインを越え神の領域に入っている。

ところで神の子イエスのこの祈りは2千年前のあの時、あの所に居合わせた人々へのみ向けられたものか。そうではないだろう。ゴルゴダの上に立った十字架、そこより放たれたこの祈りの言葉は2千年という時の谷間を越えて今日に生きる私達一人一人にも向けられたものとして受け取ることがイエスの心にならなっている。イエスの眼差しは私達にも注がれている筈。私達もイエスによって罪の赦しを祈ってもらわなければならない存在。神に対し人々に対して私達はこれまでに多くの罪、とが、過ちを重ねて来ている。こんな私達のためにイエスは今日も「父よ、〇〇をお赦してください」と祈ってくれている。イエス自身の十字架の苦しみ・死と引き換えに〇〇の罪を何卒赦してください、と。この祈り、犠牲の故に私達は今大きく赦され生かされている。